

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【 愛知県立豊野高等学校 】

1 実践テーマ	【 I・III・V 】
2 実施対象者	第1学年1・4組 男子：39名 女子：39名 計：78名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 保健体育 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	パラリンピック種目であるボッチャを題材とし、東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めるとともに、パラリンピック競技を実際に体験することで、障がい者スポーツへの理解を深め、共生社会の構築に向けた態度を養う。
5 取組内容	(1) 事前学習 ① ワークシート オリンピック・パラリンピックの意義や歴史についてのワークシートを用いた学習により、オリンピック・パラリンピックの基礎的な知識を身に付ける。 ② 事前アンケート（意識調査） 「オリンピック・パラリンピックに興味があるか」、「将来、オリンピック・パラリンピックにボランティアや応援などで参加したいか」、「東京オリンピック・パラリンピックを実際に観に行きたいか」などの項目でアンケートを実施した。 (2) 実践（本校体育館）5・6限 13:20～15:10 ① はじめに ア 本事業の趣旨や目的 イ 事前アンケート結果報告



② 競技体験（ボッチャ）

講師：豊田市立豊田特別支援学校

酒井哲哉 先生・矢部和希 先生・村上城如 先生

ア ボッチャというスポーツについて

イ ボッチャのルールについて



(プレゼンテーションソフトでのスライド・動画を用いて説明)

ウ デモンストレーション

矢部先生・豊野高生 VS 村上先生・豊野高生



(デモンストレーションを通して、ボッチャについての理解をより深める)

エ 試合（各試合2エンド）

2クラス78名を24チーム（3人班：18チーム・4人班：6チーム）に分け、1コート4チームずつ計6コートで試合

<例>

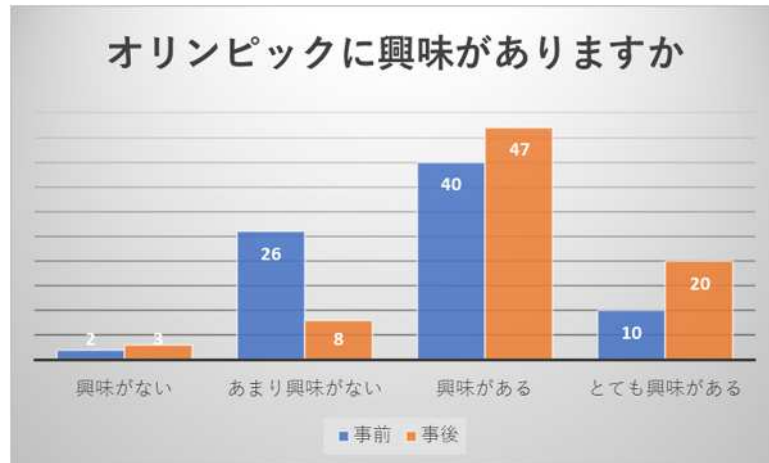
<1コート>	
【試合順】	【審判】
① A - B	C
② C - D	A
③ ①負-②負	①勝
④ ①勝-②勝	③負



③ 振り返り・お礼の言葉
 (3) 事後指導
 ① ワークシート
 ボッチャ体験を通して感じたことや考えたこと、また、事前学習から実践までを振り返り、オリンピック・パラリンピックについて考えたことをまとめる。
 ② 事後アンケート
 事前アンケートと同様の項目でアンケートを行い、取組前と取組後のオリンピック・パラリンピックに対する意識の変化についてまとめる。

6 主な成果

【アンケート結果より】



- 実際にパラリンピック種目であるボッチャを体験することができ、競技の楽しさや難しさを実感することができた。また、試合のなかで、チーム同士で作戦を話し合う姿も見られ、言語活動の充実を図ることができた。
- 事前、事後アンケートでは、特にパラリンピックへの興味関心が高まり、運動やスポーツに興味をもつようになった生徒が増えた。
- ボッチャを「する」だけでなく、生徒に審判をさせることによって、スポーツを「支える」体験をさせることができた。

【生徒の感想より】

<ボッチャ体験を通じて、感じたこと・考えたことを自由に記述してください>

- ボッチャを体験する前は、正直パラリンピックで行われるスポーツであり、障がい者や高齢者の方が中心にやっているスポーツ

のため、簡単にできるだろうと思っていました。しかし、実際に体験してみたら、とても難しく上手いきませんでした。そこで、はじめて障がいがある人もない人も、また、高齢者も皆同じ人間なのだと感じました。このことを多くの人に広めていきたいです。

- ボッチャは誰がやっても平等にできるスポーツということを知りました。楽しくでき、何より頭を使うスポーツだと感じました。
- 今までパラリンピックがやっていることは知っていても、それをやってみよう、テレビで観てみようという気にならなかったけど、ボッチャ体験を通して、興味が持てるようになりました。
- よいプレーではチームの皆で喜び合い、悪いプレーではお互いに励まし合って次に向けて気持ちを高めるとてもよい体験ができた。
- ボッチャは頭を使うし、意外と難しかった。しかし、同じ班の人と一緒に考えながらやるので、うまくいったときや勝った時はすごくうれしかった。
- ボッチャは障がい者のスポーツという意識が強かったですが、実際にやってみるとその考えは大きく変わりました。とても頭を使ったり、サポーターの人と息を合わせたりするのが難しかったです。
- あまりボッチャというスポーツ自体を知らなかったが、実際に体験してみてとても難しかったです。また、パラリンピックの競技だからといって誰もが簡単にできるわけではないということも分かりました。今回のことを今後に生かしていきたいと思いました。

<全体を振り返り、オリンピック・パラリンピックについて感じたこと・考えたことを自由に記述してください>

- どちらかというオリンピックの方が興味があったが、今回ボッチャを体験してみて、パラリンピックについてもっと知りたいと思った。
- パラリンピックは、世間的にオリンピックより注目度が少ないが、パラリンピックで行われるスポーツもとても奥が深く、興味深いと思いました。
- オリンピックは毎回楽しみにしています。選手たちの本気のぶつかり合いが見られるからです。しかし、パラリンピックはオリンピックより盛り上がりには欠けると感じていました。今回の体験を通して、パラリンピックのおもしろさに気づくことができました。
- オリンピックもパラリンピックも国の期待を背負って戦っているのは同じなので、どのスポーツも応援できるように種目や選手を知ってきたいと思いました。
- オリンピックには、知っているスポーツがたくさんあるからおもしろいと思っていたけど、パラリンピックは逆に知らないことが多いからこそおもしろさがあるし、どのようなスポーツなのか、どのような楽しさがあるのかなど、多くのことを考えさせられました。
- オリンピック・パラリンピックにどのような競技があるのかなど、分からないところがたくさんあると感じました。2021年にオリンピック・パラリンピックが開催されるかは分かりませんが、競技について色々学び、一つでも多くの競技を楽しんでみたいと思いました。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 本校の生徒の特性から、講義だけでなく、プレゼンテーションソフトのスライドや動画など視覚に訴えて説明をしたり、実技体験の時間を多く確保したりした。 • 運動に対して苦手意識をもっている生徒が多くいるため、運動が得意な人もそうでない人も、また、老若男女問わず楽しむことができる「ボッチャ」を題材とした。 • 審判も生徒自身で行わせることにより、スポーツへの関わり方には様々な形があることを再認識させることができた。 • 6コート全てに保健体育科教員を配置できたため、よりスムーズな運営ができた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルスの影響により、授業時数の確保が難しく、事前学習に多くの時間を費やすことができなかった。また、感染症対策のため、より細部まで検討することに苦労した。 • 単発的な活動になってしまったため、もう少し時間をかけて事前学習から事後指導まで実践できると、この事業がよりよいものになると感じた。 • 今回は1年1・4組の2クラスしか実践できなかった。より多くの生徒が体験できるように検討していきたい。 • 今回の実践でオリンピック・パラリンピックに興味関心があまり高まらなかった生徒に対して、スポーツの楽しさや価値について理解できるように指導していく必要があると感じた。 • 生徒たちの感覚として、ボッチャを通して楽しさや難しさを感じたものの、それがパラリンピックや今回の目標である「共生社会の構築」についての深い学びができたかどうかは少し不安が残る。 • 本事業を実施したことにより、オリンピック・パラリンピックを身近に感じ、興味関心も高まってきたが、今後は自分たちが学んだことを生かし、障がい者スポーツの普及や理解・啓発に向けて、どのように参画していけるかなど、手段や方法を具体的に示し、実現できるように指導していくことが必要だと感じた。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • パラリンピック教育において、障がい者についての理解が継続して深められるよう、体育理論などを利用して、オリンピック・パラリンピックについて触れていきたい。